

Reference 3 : JP Utility Model Publication (Kokai) No. 59-150728 U (1984)

Application number : S58-44228

Date of filing : March 29, 1983

Date of publication of application : October 8, 1984

Applicant : TOKYO KOHBUNSHI CO LTD

: TAKEDA SANGYO:KK

Inventor : KAZUYOSHI NOMURA

GISAKU TAKAHASHI

Int .Cl.³ : B65D 23/08

25/34

Title: GLASS BOTTLE COVERED WITH RESIN

Summery:

A glass bottle comprises a glass bottle body 1, patterning layers 2 of colored resin formed on the body 1, and a coating layer 3 made from resin to cover the outer surface of bottle body 1 including the pattern layers 2 (see fig.2).

公開実用 昭和 59— 150728

PA03-579
reference 3

⑨ 日本国特許庁 (JP)

11 実用新案出願公開

12 公開実用新案公報 (U)

昭59—150728

51 Int. Cl.³
B 65 D 23 08
25 34

識別記号

庁内整理番号
7312—3E
7312—3E

43 公開 昭和59年(1984)10月8日

審査請求 未請求

(全 頁)

⑤ 樹脂被覆ガラスビン

号

公実 願 昭58- 44228

出 願 人 東京高分子株式会社

出 願 昭58(1983)3月29日

東京都中央区日本橋本町4丁目
4番地

考 案 者 野村和義

出 願 人 株式会社武田産業

加須市睦町1丁目11番12号

東京都中央区日本橋室町4丁目
5番地

考 案 者 高橋儀作

東京都目黒区八雲4丁目2番9

代理人 弁理士 長沢越男

1. 考案の名称

樹脂被覆ガラスビニ

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) ガラスビニの表面に着色した合成樹脂によ

る模様層と、合成樹脂による全面被覆層との

2層を形成したことを特徴とする樹脂被覆ガ

ラスビニ

(2) 模様層は全面被覆層の下に形成されている

ことを特徴とする実用新案登録請求の範囲第

1項記載の樹脂被覆ガラスビニ

(3) 模様層は全面被覆層の上に形成されている

ことを特徴とする実用新案登録請求の範囲第

1項記載の樹脂被覆ガラスビニ

3. 考案の詳細な説明

本考案は樹脂を被覆したガラスビニ更に詳し

くは表面に、着色した合成樹脂による模様層と

合成樹脂による全面被覆層との2層を形成した

樹脂被覆ガラスビニに関するものであつて、そ

の目的とするところは、表面に合成樹脂被覆を

形成して全体として破壊され難く、あるいは破壊した時、破片が飛散し難いようにした、いわゆる難破性としたガラストンに、優美な装飾性を簡便に与えたガラストンを提供するにある。ガラストンの表面に合成樹脂層を形成すると、よって、このガラストンが破壊され難いようにしたり、あるいは破損した時に、破片が散乱し難いようにしたものによく知られているが、この難破性ガラストンは無色の合成樹脂を用いたものが大部分であり、着色したものであつても単色の合成樹脂を用いるにすぎず、極めて装飾性に乏しいガラストンであるにすぎなかつた。本考案者等は難破性を充分に保持しながら、優美な装飾性が与えられたガラストンを得るべく鋭意検討し種々実験を重ねた結果、ガラストンの表面に着色した合成樹脂による模様層と、合成樹脂による全面被覆層との2層を形成した樹脂被覆ガラストンとすることによつて、よくその目的を達することが出来、本考案を得たものである。

今、添付図面について本考案の実施の一例を更に詳細に説明すると、1はガラスビン本体であつて、2は着色合成樹脂による模様層、3は合成樹脂による全面被覆層である。

本考案にあつてはガラスビン本体1上には模様層2と全面被覆層3とが形成されるが、この模様層2と全面被覆層3とは第1図に示すように全面被覆層3の上に模様層2が形成される場合と、第2図に示すように模様層2の上に全面被覆層3が形成される場合とがある。



本考案における模様層と全面被覆層とに用いられる合成樹脂の種類は問わないが、ビン本体上に層を形成するための容易さその他を考えると熱可塑性合成樹脂が望ましい。これに用いられる熱可塑性合成樹脂の一例としては例えばポリエチレン樹脂、ポリ塩化ビニル樹脂、ポリエステル樹脂、ポリウレタン樹脂、エポキシ樹脂等を挙げることができる。

本考案における全面被覆層に用いられる合成樹脂を選択するには、次のような点を配慮する

ことが望ましい。すなわち、この全面被覆層が模様層の下に形成される場合には、こゝに形成される全面被覆層は、無色の層であつても着色された層であつてもよく、また透明あるいは半透明な層であつてもよいことはもちろん、不透明な層であつてもよい。また全面被覆層が模様層の上に形成される場合には、こゝに形成される全面被覆層は、無色の層であつても着色された層であつてもよいが、それは透明あるいは半透明な層であることが望ましく、不透明な層である時は、この下に形成される模様層が全面被覆層によつて透視できないから好ましくない。

これに対し、模様層に用いられる合成樹脂を選択するには次のような点を配慮することが望ましい。すなわち模様層を形成する合成樹脂は透明、半透明あるいは不透明な合成樹脂であつてもよいが、これらの場合いずれも着色された合成樹脂であることを必要とする。

ガラスビン本体上に形成される模様層の厚さは、これによつて模様が形成されていればよい

から任意である。また全面被覆層の厚さは、この層が、ガラスエポキシの難破性の維持の役割に大きく役立っていることから原則的には任意であるが、難破性の維持と体裁等を考慮すれば0.1mm～2mm程度の範囲内にあることが好ましい。

本考案になる樹脂被覆ガラスエポキシを得るには任意の方法によればよいが、例えばガラスエポキシの表面に流動浸漬法によつて全面被覆層を形成してからこの全面被覆層の上に着色した合成樹脂粉末を適當の模様状に吹きつけた後、冷却することによつて樹脂被覆ガラスエポキシが得られる。この時、全面被覆層の上に着色した合成樹脂粉末を吹きつける際には、着色した合成樹脂粉末が溶融して模様層が形成できるようにガラスエポキシは加熱されていなければならない。

本考案になる樹脂被覆ガラスエポキシは以上に詳細に説明したように構成されているから、全面被覆層によつてガラスエポキシの難破性が強力に維持されると共に着色した合成樹脂によつて形成された模様層は全面被覆層の上にあつても下に

あつても判つきりと認識することができるから
 優美な装飾性をガラスピンに付与することが出
 来たものであつて、従来見ることはできなかつ
 た美麗な模様が付与された各種の難破性のガラ
 スピンを簡便に提供することができた実用上ま
 ことに優れた考案である。

4. 図面の簡単な説明

添付図面は本考案の実施の一例を示すもので
 第 1 図は縦断側面図、第 2 図は他の実施の一例
 を示す縦断側面図である。

- 1 : ガラスピン本体 2 : 模様層
 3 : 全面被覆層

実用新案登録出願人 東京高分子株式会社

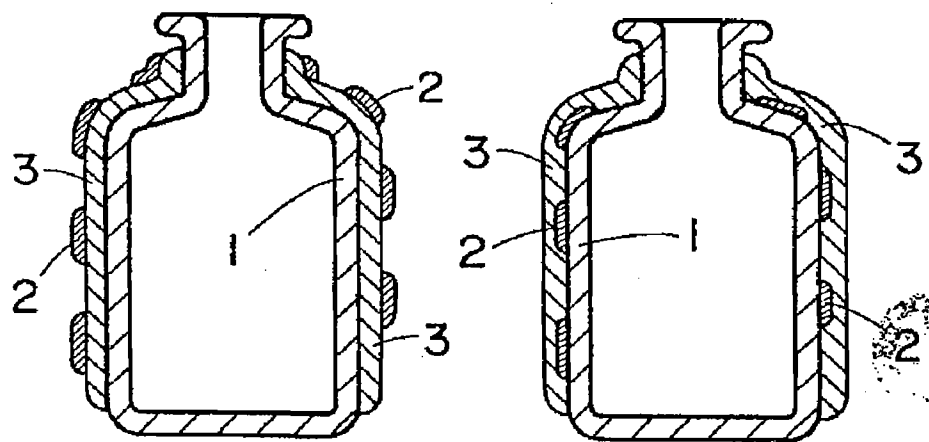
ほか 1 名

代理人 弁理士 長 澤 越 男



＊ 1 図

＊ 2 図



実用新案登録出願人 東京高分子株式会社
 代理人 弁理士 長澤越男
 外1名

発明59-150723

手続補正書（自発）

昭和58年5月17日

特許庁長官 若 杉 和 夫 殿

1. 事件の表示

実願昭58-44228号

2. 考案の名称

樹脂被覆ガラスビン

3. 補正をする者

事件との関係 実用新案登録出願人

住 所 東京都中央区日本橋本町4丁目4番地

名 称 東京高分子株式会社 外1名

代表者 代表取締役 植 村 和 男

4. 代 理 人 〒183 電話 0425-76-3062

住 所 東京都府中市北山町4丁目13番地の6

氏 名 (7830) 代理人弁理士 長澤 越 男

5. 補正の対象

図 面

6. 補正の内容

願書に添付した図面を別添の図面に訂正する。

以 上

実願59-150728

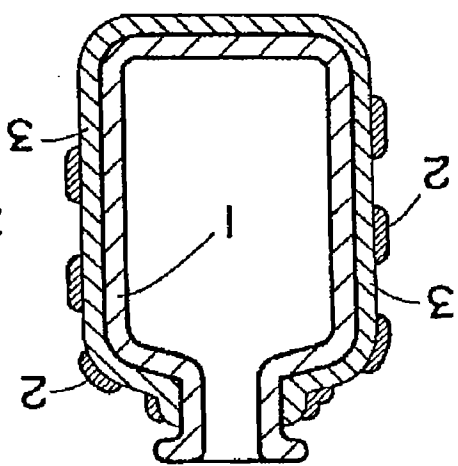
261

特許庁

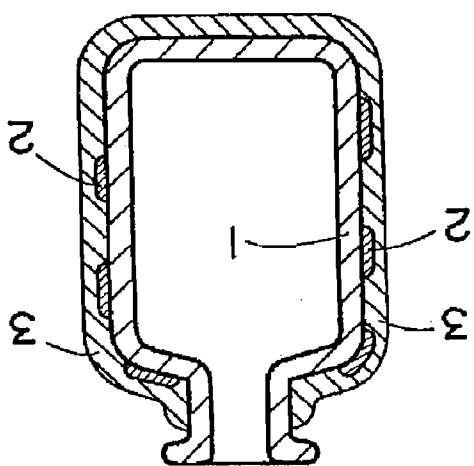
58.5.17

実用新案登録出願人 東京高分子株式会社 外1名
代理人 弁護士 長澤越男

実開59-150728
262
昭.58.5.19.



※ 1 図



※ 2 図